

表在性膿皮症にテリオス®錠およびマラセチア 皮膚炎用シャンプーを併用した1例(犬)



北海道苫小牧市 A動物病院

緒言

犬の表在性膿皮症は、主に常在菌であるブドウ球菌が何らかの原因により増殖することで発症し、犬アトピー性皮膚炎(CAD)や食物アレルギーなどが背景にあるケースも多いと言われている。表在性膿皮症の治療は、ISCADのガイドラインでは外用薬が第一推奨とされているが、外用療法では改善に乏しい場合などには内服薬の併用が適する症例もある。一方で、動物用セファレキシン(CEX)製剤は動物の嗜好性に配慮した薬剤も多く、アレルゲンとなりうる蛋白質を含んでいる製剤もあり、食物アレルギーが疑われるようなCADの合併症例には動物性蛋白質の影響が懸念される。

また、CEXは嘔吐の副作用が添付文書で注意喚起されており、当院でもかつてはおよそ5%の比率で、嘔吐の副作用を経験していた。この度、膿皮症の治療においてCAD合併症例へのアレルギーのリスク回避や嘔吐の軽減を目的にテリオス®錠を選択したところ、副作用の軽減と良好な治療効果が得られたので報告する。

プロフィール

品 種：シーズー

性 別：雄(去勢済)

年 齢：14歳

体 重：6.9kg

主要病変：左右腋下部;発赤、掻痒、脱毛
左右鼠径部;発赤、掻痒、脱毛

顕微鏡所見：グラム陽性球菌、マラセチア
および好中球を確認

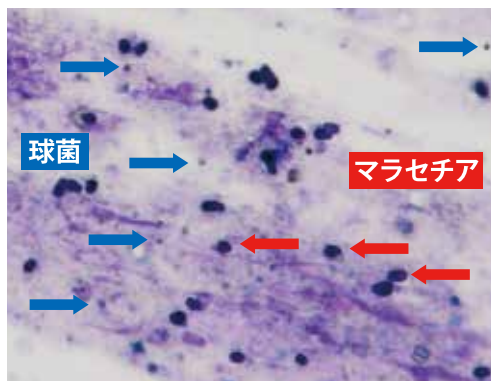


図1 直接塗抹顕微鏡写真

(グラム染色)

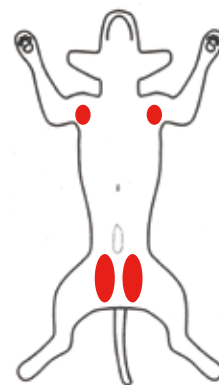


図2 症例の病変(位置)

臨床所見及び治療経過

【第1病日:2024年6月6日】

他院にてオクラシニブを2カ月以上投与されていた。左右腋下部と左右鼠径部の発赤、掻痒が著しく、わずかに脱毛も認められた。右鼠径部には1円玉大の丘疹が、左鼠径部には1円玉大の表皮小環が認められた。病変部の直接塗抹をグラム染色した結果、グラム陽性球菌、マラセチアと浸潤した好中球が確認され(図1)、掻痒、体全体の発赤も見られたので、CADが背景にある表在性膿皮症と診断した。

【第8病日:6月13日】

左右腋下部の発赤、掻痒は消失し、脱毛の改善も認められた。

左右鼠径部の発赤、掻痒および脱毛は改善した。右鼠径部の丘疹と左鼠径部の表皮小環も消失した。

腋下部と鼠径部の肉眼所見は消失したが、掻痒がわずかに残っていたため、テリオス®錠の用法及び用量は「7日間経口投与」であるが、完治させるのを目的にさらに7日間の追加処方を行った。

【第14病日:6月19日】

左右腋下部の発赤、脱毛は完治した。

左右鼠径部の発赤と脱毛は完治した。腋下部と鼠径部の掻痒も消失した。

セファレキシン(経口)

15mg/kg,BID,7days

オクラシニブ(経口)

0.4mg/kg,SID,7days

抗菌シャンプー

クロルヘキシジン+ミコナゾール含有
2回/week

15mg/kg,BID,7days

0.4mg/kg,SID,7days

クロルヘキシジン+ミコナゾール含有
1回/week

病日

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

図3 治療スケジュール

臨床所見の経過 (主要病変は四角と矢印で示した)

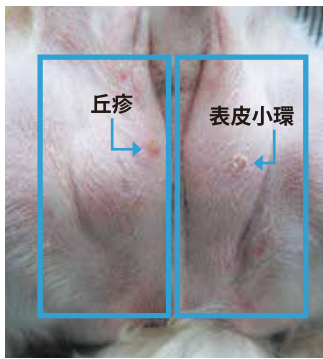


図4 鼠径部の写真(第1病日)

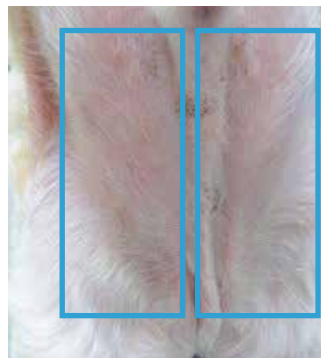


図5 鼠径部の写真(第8病日)

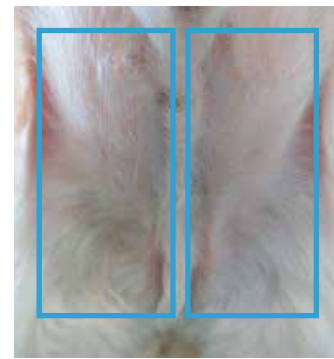


図6 鼠径部の写真(第14病日)

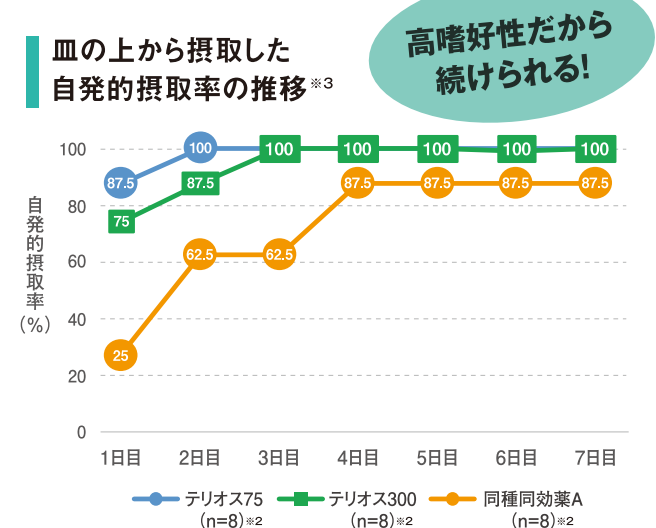
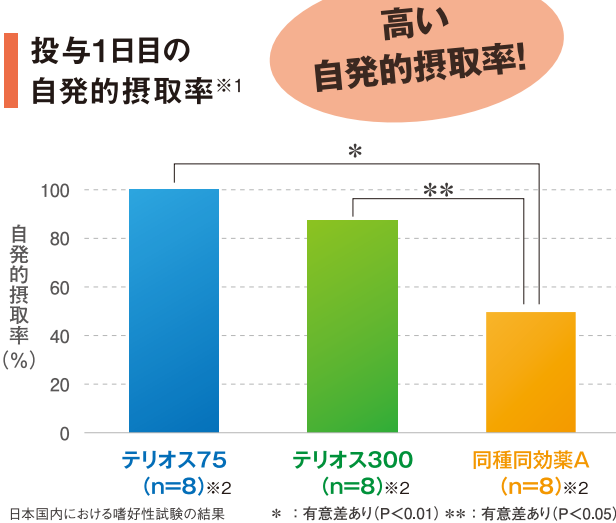
考察

1) : 伊従慶太: 犬のスキンケアパーフェクトガイド: インターズー: 2018

本症例は、他院においてCAD治療で長期間オクラシチニブを投与されていた。初診時の細菌検査によって、グラム陽性球菌とマラセチアが分離されたので、CADが関与した表在性膿皮症と診断し、原因菌の殺菌と掻痒改善を目的とする治療を開始した。CAD罹患犬の75%には何らかの食物アレルギーが認められる¹⁾と言われているが、犬用のCEX製剤には蛋白質を含むフレーバー錠が多く、投薬には注意が必要である。一方、テリオス[®]錠300mgは嗜好性向上の工夫をされているにも関わらず、錠剤に食物アレルギーの原因となりうる蛋白質は含まれていないため、アレルギー反応を心配せずに使用できる。

また、CEXを投与した犬における嘔吐は他の抗菌薬より比較的起こりやすいと言われており、特に空腹時に起こりやすいとされている。当院でも以前はCEX製剤投与後の嘔吐を数多く経験していたが、テリオス[®]錠を使用しはじめておよそ9カ月を経過した現在でも嘔吐は未だ見られていない。

テリオス[®]錠は犬が自発的に服薬するため、食事を与えた後に投与できるなど投薬のタイミングを図りやすい。また、テリオス[®]錠は、苦いCEX原末に添加する賦形剤の量、賦形剤、香料などの配合比等を工夫することにより、犬における嗜好性が改良されている。この賦形剤が、CEXの原薬と同時に犬に経口投与され、胃内に拡散することで、原薬による嘔吐が減少するものと推察される。



テリオス錠の嗜好性はA剤(動物用セファレキシム製剤)より高く、投与初日から自発的に摂取できる事が確認されました!

テリオス錠の嗜好性の継続[※]は投与2日目あるいは3日目以降、100%となり、その後も高い自発的摂取率が維持されることが確認されました!

※1: まずは錠剤を皿の上に置いて、摂取しなかった場合は手の平から提示し、さらに摂取しなかった場合は口元に錠剤を持っていく、の順番で摂取した比率。
 ※2: 試験は1群4頭でスタートし、群を入れ替えて2回実施した。

※3: 皿の上から摂取した頭数/全頭数×100

- 特長1** デリカメント技術により高嗜好性を実現。
- 特長2** 4分割錠(300mg²⁾と2分割錠(75mg)があります。
- 特長3** 投与初日から自発的に摂取して、その後も継続的に食べてくれます。
- 特長4** ビスケット&酵母風味(300mg²⁾と豚レバー&酵母風味(75mg)があります。



2): 300mg 錠は、食物アレルギーの原因となりうる蛋白質を使用していません。